

災害共済 A-I-OCRによる証券読取システム導入 代理店負荷軽減・手続き迅速化後押し

災害共済は11月24日、「A-I-OCRによる自動車保険証券等読取システム」をエヌ・ティ

・ティ・イフ(NTTイフ)、アイリックコーポレーションと共同で開発し、10月26日から代理店募集人向けに提供を開始したと発表した。

同システムでは、現在加入中の自動車保険証券等を撮影して画像をアップロードすると、アイリックコーポレーションのA-I-OCR技術(保険証券OCRサービス)とNTTイフの自動解析技術(I-Insurtech@自動車保険A-IスキャンへAPI型)を使って読み取り、自動車保険の見積もりに必要な項目を災害共済の見積もり入力画面に自動的に反映することができる。これによって、同社代理店の募集人の事務負担軽減と、顧客へのスピーデ

ィーな見積書の提示を実現したとしている。同システムには、①読み取り可能な保険会社制限がない②写真撮影時の多少のずれや証券自体の折れ・まがりなどはAIが自動補正して読み取りできる③読み取れるレイアウトが固定化されていないので、デザインが変更された証券でも対応可能④入力完了後、リアルタイムに比較見積もり結果を表示⑤利用はスマートフォン、タブレット、PCのブラウザから可能といった特徴がある。

A-I-OCRは、従来のOCRの「定型フォーマットを読み取る」という機能にAIが組み合わさることによって、保険会社ごとに異なるフォーマットの保険証券から、自動車保険の見積書作成に必要な情報のみを判別して読み取り、文字データに自動的に変換、同社代理店システムの「自動車保険見積書作成画面」へのデータ貼り付けまでにかかる時間が数分程度で完了し、見積書作成に要する時間が大幅に短縮される。

また、同社が提供する「KITたぶ」(タブレット端末用の代理店システム)を併用すると、端末に内蔵されているカメラ機能を起動して証券画像の撮影から見積書作成、契約手続き、契約計上までをシームレスに行うことができるようになる。募集者の事務負担が大きく軽減されるとい

う。同社では今後も、顧客の利便性の向上と、募集者の事務負担軽減を実現する代理店システムの提供に向けて、デジタルトランスフォーメーションの取り組みを加速させるとしている。